

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2375601594		
法人名	有限会社ライフエール		
事業所名	グループホーム悠縁 1階		
所在地	愛知県愛西市甘村井町勘十田割21-2		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月10日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎日レクリエーションの時間を作り、利用者様、職員一緒に楽しく過ごしている。
---------------------------------------

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2375601594-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2375601594-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは複数の介護事業所と併設されて運営されていることで、利用者の様々なニーズに対応した支援が行われている。関連事業所との合同の夏祭りの取り組みが行われており、その際には、多くの家族や地域の方が訪問しており、様々な分野の方との交流の機会につながっている。ホームの日常的な支援としては、利用者に合わせて個別のレクリエーションの取り組みが行われており、その際には公文式の学習療法も取り入れており、脳トレの取り組みが行われている。その一方で、ホーム開設時より利用者の看取りを見据えた支援にも取り組んでおり、これまでに多くの方の最期を支援する取り組みが行われている。また、職員給料の支給の際には、法人代表者により職員一人ひとりの内容が異なっている手紙が添えられており、この取り組みは職員数が増えた現在でも継続されている。
--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年10月25日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の理念を事務所に貼り出し、毎朝、朝礼時にスタッフ復唱している	基本理念9項目の他に3項目を年度毎に職員間で考えており、合計12項目の理念として、毎日の朝礼時に唱和を行っている。また、理念をホーム内に掲示しており、日常的に職員が意識するように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の清掃、草むしり等に職員、利用者と一緒に参加し、地域の一員として交流するようにしている	ホームは町内会に入り、地域の活動への参加等、交流の機会に取り組んでいる。地域の方とは、関連事業所とも連携して行っており、合同で開催する夏祭りの際には、多くの方の参加、協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の中で地域の人々に認知症の人の理解や支援の方法を広め活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を通して意見交換し、サービスの向上に努めている	会議は、関連事業所との合同で開催しており、各事業所から運営状況の報告を行うことで、出席者にホームの取り組みを知ってもらう機会につなげている。また、会議に市職員が出席していることで、運営に関する情報交換にもつながっている。	会議の参加者については、現状、決まった方を中心に行われていることもあるため、他の家族への参加の働きかけ等の取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	一年を通しての行事やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている	市内の介護事業所との連絡会が組織され、持ち回りで役員を務める等、市の介護保険事業への協力が行われている。また、ホームの他にも関連事業所の職員を通じた情報交換の機会をつくる取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関等の施錠はせず自由に行動ができるよう、身体拘束せず、ケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない方針を掲げており、利用者の安全にも配慮しながら身体拘束を行わない支援に取り組んでいる。また、法人全体で身体拘束廃止委員会を組織しており、委員会を通じて指導を行う等の取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ同士声をかけ合い、虐待のない様注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は研修等で学ぶ機会を持ち、個々の必要性を活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	担当職員がご家族と十分に話し合い理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議でご家族、外部者tぽの意見交換をする	合同の行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。家族からの苦情や要望等については、ホーム管理者の他にも法人代表者が解決者として対応する体制がつけられている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回フロア一会議を開き、意見交換をしている	毎月の職員会議を行っており、職員からの意見等を代表者との幹部会議で検討する等、ホームの運営に反映できるように取り組んでいる。また、日常的に意見交換を行う取り組みを行っている他にも、各種委員会活動を通じた業務改善等の取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員一人ひとりの意見に耳を傾け各自が向上心持てるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内、施設外の研修を通して、職員一人ひとりのスキルアップできるように取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	事業所連絡会を通して意見、情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者が安心して過ごせるように一人ひとり声かけし、良好な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	お家族の困っている事、不安な事に耳を傾け、安心してもらえる関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始前にご家族、本人と話し合い、今、必要なサービスについて話し合う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員も利用者と同じ立場と考え、安心して生活ができる関係作りを築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の思いや、相談に耳を傾け、同じ立場になり、本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者から思い出し等、大切にしてきた人、物にはしっかり耳を傾け、馴染みの人は場所の関係が途切れないよう支援に努めている	利用者により馴染みの方がホームに訪問して利用者で交流したり、手紙等を通じた交流も行われている。家族と行きつけの喫茶店や美容院に出かけている方もいる。また、親族の法事等の際には、ホームでも更衣等の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりが孤立しないように声かけし、利用者同士の関わり合い、支え合えるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了しても電話等での相談の支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとり、どのように生活したいのか、本人から話を聞き、希望、意向を把握し、応えられるよう努めている	居室担当の職員が利用者毎の手紙を作成する等、利用者の把握につなげる取り組みが行われている。日常的に申し送りの時間を確保しており、職員間での共有が行われている。また、毎月のカンファレンスの機会もつくられており、意向等の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活と変化はないよう、サービス利用等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりのその日の心身状態に合わせて、一日の過ごし方を把握し努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族と意見を聞き、職員と話し合い現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、基本6か月での見直しが行われており、変化に合わせた見直しも行われている。職員間で介護計画に合わせた支援を行うように、日常的に支援内容をチェックする取り組みも行われている。	現状、介護保険の更新に合わせて、家族との介護計画に関する話し合いが行われているが、より短期間での取り組みを期待したい。また、モニタリングが不十分でもあるため、定期的なモニタリングにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の個人記録に毎日の生活状況を記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の変化を見逃さず、その時、その時に必要なサービスについて、スタッフや家族と話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一人ひとり安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回、往診に来てもらい、一人ひとりの健康状態をみてもらっている	協力医による定期的な訪問診療が行われているが、利用者により、今までのかかりつけ医を継続している方もいる。認知症専門医による医療面での支援も行われている。また、週1回の訪問看護による健康チェック等の対応も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回、訪問看護に来てもらい、一人ひとりの健康状態をみてもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、家人と連絡をとり合い情報交換し、相談にも努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	病院、家人と話し合い、本人が毎日安心して過ごしてもらえるよう支援に取り組んでいる	協力医による柔軟な支援を受けながら、多くの方の看取り支援が行われている。ホームでの最期を希望している方が多く、家族との話し合いを深めながら、一人ひとりに合わせた取り組みが行われている。職員研修等の取り組みは、必要に合わせて行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	消防署により、年に2回、定期的に訓練を行い、実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署により避難訓練を行い、全職員が身につけている	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認の他、関連事業所との合同の訓練も実施している。訓練の際には消防署の協力が得られている。地域の方の受け入れも想定しながら、関連事業所と連携した備蓄品の確保に取り組んでいる。	重度の方が多く生活している現状があるため、職員間での継続した周知等の取り組みに期待したい。また、水害を想定した取り組みも含め、関連事業所との継続した取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとり声かけには注意を払い、人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中に利用者への尊重を掲げており、職員間で日常的に理念の内容を唱和しながら、言葉遣い等を意識するような取り組みが行われている。その上で、職員による対応で気になった際には、管理者からの注意喚起等が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が決めるのではなく、本人の思いを聞き、自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	作業するにも本人の状態を考え、本人のペースに合わせ、希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や入浴時、外出時等、本人に洋服を選んでもらう		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事、おやつ作りを職員と一緒に出来るだけ行い、楽しく準備、片付けをする	食事については、入浴を実施しないユニットで調理を行っている。メニューは職員で考えており、利用者の好みや嗜好等にも配慮している。重度の方に合わせたミキサーやトロミ等の食事形態の配慮も行われている。また、行事食等の取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に合わせ、食事形態を変え提供し、完食できるよう支援する		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後には必ず口腔ケアを行い、出来ない人には介助し、清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを理解し、トイレでの排泄、自立に向けた支援を行う	利用者全員の排泄に関する記録を残しており、日常の申し送りの時間等を通じて職員間での共有に取り組んでおり、トイレでの排泄を目指している。また、訪問看護とも連携しながら、排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘改善の体操をしたり、水分補給、食事内容を考え、便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	一人ひとり休憩している時間、楽しく過ごしている時間が違う為、本人の希望やタイミングに合わせている	ユニット毎に交互に入浴が行われており、利用者は週3回入浴している。入浴のない日には足浴をする取り組みも行われている。また、重度の方に合わせた職員複数での介助や季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、本人の状態をみながら休息したり、日中体を動かし、夜は気持ち良く眠れるよう支援する		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	提供する前には日付け名前を声に出し、本人、職員2名で確認する。又、薬剤師により指導も受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	外出し買い物をしたり、食事をしたり、散歩に出かけたり、楽しく過ごせる時間を作っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとり得意な分野がある為、本人に合ったレクリエーションを行い、気分転換等の支援をしている	天候などをみながら周辺を散歩したり、外出が難しい方にはベランダに出て日光浴をもらう機会をつくっている。また、関連事業所の自動車を借りて外出行事が行われており、季節に合わせた外出や喫茶に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物、食事等で外出した際に、その都度、お金を所持し、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をしてほしい等の訴えがあれば連絡をしたり、手紙等のやり取りができるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせ、貼り絵等の壁飾りを利用者の方と製作し、季節を感じてもらえるようにしている	ホーム内はゆったりとした空間を確保していることで、利用者が日中の時間をリビングでのんびりと過ごしてもらえるように配慮している。また、匂いを窮する素材の壁を取り入れたり、季節に合わせた飾り付けを行う等、快適な環境づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを置くことにより、利用者同士で思い思いに過ごせるように居場所作りの工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れたもの等を居室に置いたり、写真を飾ったりして、居心地よく過ごせるようにしている	利用者の意向等にも合わせながら、使い慣れた家具類を持ち込んでいる方やシンプルな雰囲気の方の居室があり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者により家族との写真や自身の作品を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとり出来る範囲での作業を行ってもらい、自立した生活がおくれるよう工夫している		